

# 最近のGPL違反について、 一つのご提案 (抜粋)

2010年5月19日

NEC

OSS推進センター

姉崎 章博



**OSS License  
Checked!**


 アットマーク・アイティ  
 ITエキスパートのための問題解決メディア

Google™ Custom Search
 
 Google検索

@IT情報マネジメントカンファレンス
 第5回 ログ活用セミナー  
 猛威をふるうガンブラー、情報漏えい  
 先進企業に学ぶ! いま企業が行うべき セキュリティリスク回避策  
 ・会期 2010年3/10(水) ・会場 秋葉原UDXギャラリー ・定員 200名

@IT総合トップ > @IT CORE > Linux Square > OSSライセンス順守の第一歩

PR 【3/10】先進企業に学ぶ! セキュリティリスク回避策



# OSSライセンス入門

## 最終回 OSSライセンス順守の第一歩

この連載では、企業がオープンソースソフトウェアとうまく付き合い、豊かにしていくために最低限必要なライセンス上の知識を説明します。(編集部)

NEC  
姉崎 章博  
2010/2/18



スポンサーからのお知らせ

- ▶ 今こそ改革を! 情報システム部門のあるべき姿  
情報システムは『競争力の源泉』となるべきで  
経営・部門長のリーダーシップが問われます
- ▶ デジタルネイティブ時代 —— 変化が到来する  
競争優位をもたらす“超”コミュニケーション  
～ 一橋大学 米倉誠一郎教授による講演 ～
- ▶ “@ITを読んでいる学生”を採用したい!  
技術志向が高くITが大好きな学生を求む。  
そんなIT企業を検索できます。-就ラボ-
- ▶ 新型Tesla “Fermi” 対応!  
GPUボード最大8基搭載可能なGPGPUシリーズ

- 第1回 訴訟が増えている!? OSSライセンス違反
- 第2回 OSSライセンスが求める条件とは?
- 第3回 アカデミック系OSSライセンスに関する一考察
- 第4回 GNU系OSSライセンスに関する一考察
- 第5回 OSI系OSSライセンスに関する一考察
- 最終回 OSSライセンス順守の第一歩

- <http://www.atmarkit.co.jp/flinux/rensai/osslc01/osslc01a.html>
- <http://www.atmarkit.co.jp/flinux/rensai/osslc02/osslc02a.html>
- <http://www.atmarkit.co.jp/flinux/rensai/osslc03/osslc03a.html>
- <http://www.atmarkit.co.jp/flinux/rensai/osslc04/osslc04a.html>
- <http://www.atmarkit.co.jp/flinux/rensai/osslc05/osslc05a.html>
- <http://www.atmarkit.co.jp/flinux/rensai/osslc06/osslc06a.html>

# 「OSSライセンスは企業に優しくは無い」

ET2009パネル「Android利用時に気を付けたいGPLのABC」での八田真行氏の発言から

- 「ソースをすべて公開すれば、何も問題はない。」  
「それを、プロプラにしようとするから難しいです。」(Debian 八田真行氏)
  - 「どうすればGPLになることを」「なぜ、私がそれに答えなければ」  
「それなりの勉強」に必要なセミナーをご用意しております。
  - Red Hat のLinux ディストリビューションのドキュメントが何もなく、何も書かれていない。ソースは全てCD-ROMからダウンロードできる。
- 「難しいことをするなら、それなりに勉強して、きちんと対応しなければならない。」
  - OSSを利用していながらプロプラ部分を出荷したいなら、それなりにOSSライセンスを研究して製品
- リコーは10年前から社内に言っている。  
今日は、「それなりの勉強」に必要な概要をご紹介します。
- Linuxを使うならMakefileも含めてソース一式をCD-ROMに入れる。
- それが出来ないなら、Linuxは使うな。

# 1. 最近のGPL違反は、なにをしたのか？

**ほとんどがBusy Boxのソースコードを  
開示していなかった**

**※ソース開示:ソース添付または**

**提供する旨を明記した3年間は有効な書面を添付**

## 2. 無償で使えているOSSでなぜトラブルになるのか？

**OSSライセンスは著作権に基づいています。**

**使用(実行)することは  
著作権に抵触しなくても、  
許可無く利用(販売)することは  
著作権侵害になるからです。**

### 3. 結局、OSSライセンスは何をしなければならないのか？

---

## コミュニティで見かける答え 「ライセンスを読め」

それでは、とりつく島もないので、大雑把に3つの行為

- ① ソースの開示
- ② リバースエンジニアリングの許可
- ③ ドキュメントに必要な記載

## 4. BSDやApacheライセンスなら何もしなくも良いか？

**日本でも  
ライセンス条文を明記しなかったことを  
Web上やセミナーで批判された事例が  
あります。**

## 5. 自社は大丈夫！？それだけで良い？

**発注先、OEMの対応は大丈夫ですか？  
何も編集していない番組をテレビ局が  
勝手に再放送できないのが著作権。**

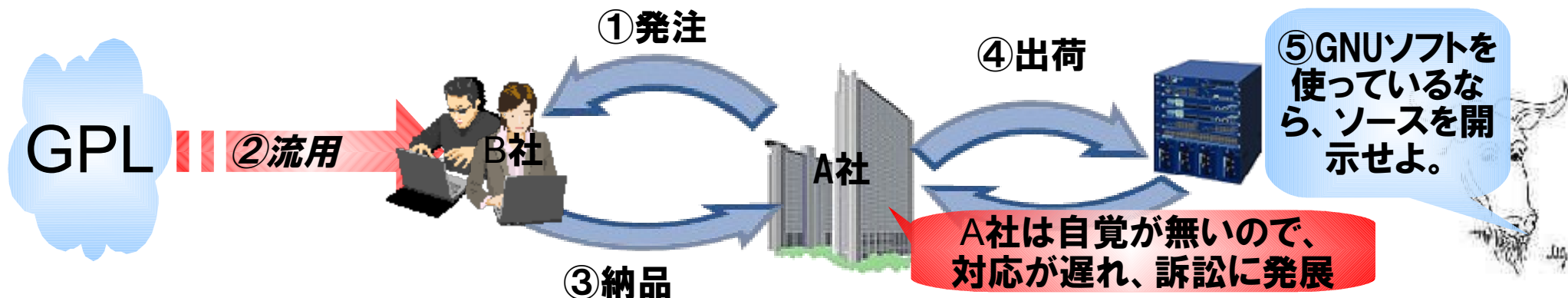


# すべて自社開発！・・・その確認はできていますか？

## すべて自社開発のつもり、が一番危険かもしれません。

### ⚠ OSSライセンスに関するトラブル例

ある企業A社が、自社ブランドの製品としてハードウェア製品を販売した。しかし実際の開発は下請けのB社が行っており、ファームウェアの一部としてGPLが適用されたプログラムが使われていた。A社はこの事実をまったく把握しておらず、ユーザからの問い合わせ（ソースコード開示の要求など）に適切に対応できなかった。

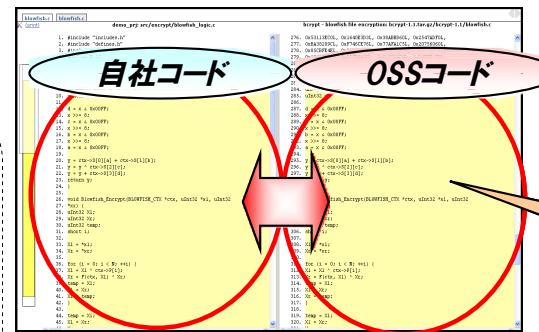
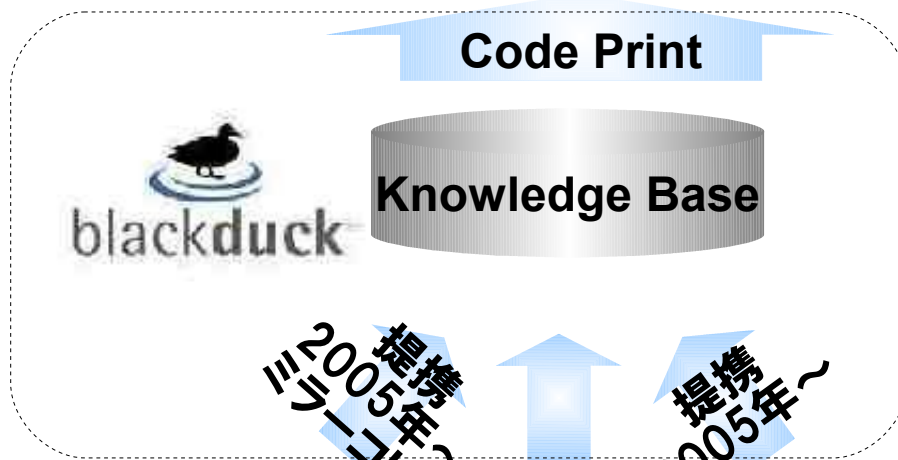
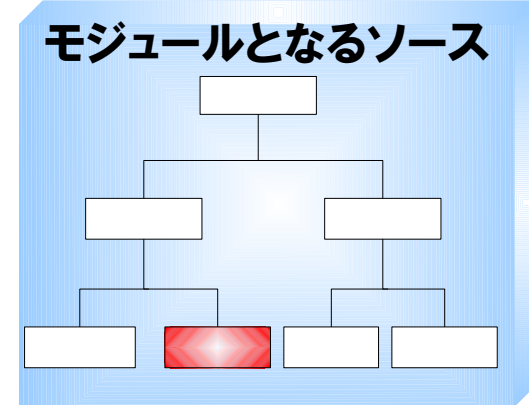


## 6. 自社開発だから大丈夫！？その確証は？

**自社開発したものだけなら大丈夫なはず。  
OSSを意識していない製品で指摘されたら  
対応が後手後手に回ります。  
確かにOSSやインターネット上のデータを含んでいないことを確認しておきましょう。**

# OSSを使っていないことを確認する＞Protexが便利です

- 自社開発ソフト中の思わぬOSSコード混入を出荷前に検出し、意図しない自社コード開示義務やネット上でのバッシングとなる事態を未然に抑止します。



一致・類似箇所をハイライト表示

<http://www.nec.co.jp/oss/protexpip/>



## 7. OSSを活用した製品は大丈夫か？

**自社開発したプログラム、  
利用したOSS、  
OSSを利用したプログラム  
それぞれ確認しておきましょう。**

# 問診票:オープンソースをライセンス的に正しくつかうための11のチェックポイント

- Q1. その商用プログラム、すべて自社の著作物ですか？
- Q2. 他社の商用プログラムを同梱している場合、必要な手続きはお済みですか？
- Q3. 他人の著作物を利用していないことを確認するためコード検査をしていますか？
- Q4. OSSの「使用」だけですか？つまり一部流用も含め一切同梱していないですか？
- Q5. 単なる同梱でもOSSの「利用」です。ライセンスを遵守していますか？
- Q6. BSDタイプのOSSライセンスでも許諾要件があります。要件を満たしていますか？
- Q7. GPL/LGPL/MPLタイプのOSSはソース開示していますか？
- Q8. LGPL OSSの二次的著作物(利用プログラム等)のリバースエンジニアリングを許可していますか？
- Q9. GPLタイプOSSの二次的著作物(利用プログラム、ドライバ等を含む)のソースを開示していますか？
- Q10. 遵守しやすい、ライセンス毎に分けたプログラム構造、物件管理をしていますか？
- Q11. 利用するOSSに還元していますか？

builder by ZDNet Japan <http://builder.japan.zdnet.com/news/story/0,3800079086,20387156,00.htm>  
での紹介記事



## 8. そういう話をテキストを使ってじっくり聞きたい

**3時間の有料セミナーをご用意しています。**

### 第1章 OSSとは

フリーウェア/フリーソフトとは違うものであることを学びます

### 第2章 OSSライセンスの基礎

著作権法、ライセンスが許諾している行為、知財権の非普遍性について学びます

### 第3章 OSSライセンスの概要

OSSライセンスが再頒布を許諾している条件について学びます

### 第4章 OSSライセンス違反のトラブル概要

ライセンス違反で起きたトラブルの概要について学びます

### 第5章 対策案の紹介

ライセンス違反の対策案について学びます

### 第6章 OSSライセンス詳細

遵守状況を確認する上での注意事項をいくつか紹介します



# セミナーテキストのイメージ - 交通費込み33万円から

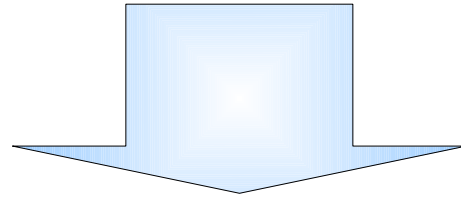
- @ITの記事の「著作権法」のレベルから「使用・利用の違い」、CPL,LGPL,GPLなどのライセンスの注意点まで幅広くお話しします。

The collage consists of several overlapping slides from a presentation:

- Slide 1 (Top Left):** Title "著作権はIP (知的財産) のひとつ" (Copyright is one of IP (Intellectual Property)). It lists "IP (知的財産): Intellectual Propertyの場" and "IP (知的財産)の場". It also mentions "著作権の正当性は普遍ではない" (The legitimacy of copyright is not universal).
- Slide 2 (Top Right):** Title "CPL (Common Public License) で要件を見落とした事例" (Case of overlooking requirements with CPL). It discusses "一般ユーザ" (General User) and "機器販売" (Equipment Sales).
- Slide 3 (Middle Left):** Title "プログラムの「使用」と「利用」" (Program's "Use" and "Utilization"). It defines "利用" (exploit) as "複製や公衆送信等著作権者の" (Copying or public transmission, etc., by the copyright holder) and "使用" (use) as "著作物を見る、聞く等のような単なる" (Simply seeing, hearing, etc., of the work).
- Slide 4 (Middle Right):** Title "Linux上でのGPL伝達の概要 (端的な表現であり要注意)" (Summary of GPL transmission on Linux (concise expression, please pay attention)). It lists: "GPLの伝達が気になる場合は、標準インターフェースのみを使用したアプリ" (If you are concerned about GPL transmission, use only standard interfaces), "GPLライセンスをリンクル・オブジェクトにソースの開示を要求されない" (GPL license does not require source disclosure for linked objects), and "デバイスドライバに異なる意見があるが、開示を前倒しに開発するのが無難" (There are different opinions on device drivers, but it is safer to develop by disclosing earlier).
- Slide 5 (Bottom Left):** Title "OSSライセンスを気に" (Worried about OSS license). It shows a diagram of "OSSライセンスを気に" (Worried about OSS license) and "OSSライセンスを気に" (Worried about OSS license).
- Slide 6 (Bottom Right):** Title "GPLライセンスのデバイスドライバを×「開示すべき」と考えるべき" (Should we think of GPL license device drivers as "should be disclosed" with an X?). It discusses "プログラムの開発者" (Program developer) and "プログラムの開発者" (Program developer).

## 9. OSSを使っているのは分かっている。具体的に何をしたらよいか教えてほしい

**OEM元がこのライセンス条文をドキュメントに添付すれば良いと言ってきたが、その対応で正しいか？**



**ライセンス条文を確認し、必要な要件を洗い出し、必要な対処方法をご提案します。**

**～OSS30種程度までで50数万円から**

**その他、様々なご相談に対応いたします。**



# 10. OSSの利用を管理下に置くための帳票例がほしい

## 品質管理プロセス への要件

(管理プロセスのどのタイミングで  
どのチェックを行い、チェック結果を  
どこでフォローするか of 提案)

## クリア状況報告書

(OSSを利用/非利用に関わらず、  
OEMなど再販製品も含めて、  
確認した結果を報告し、問題が  
無いことを報告するもの)

## 問診票

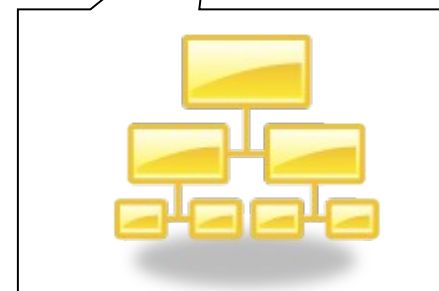
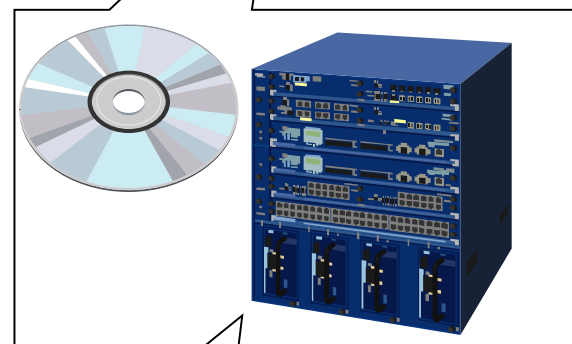
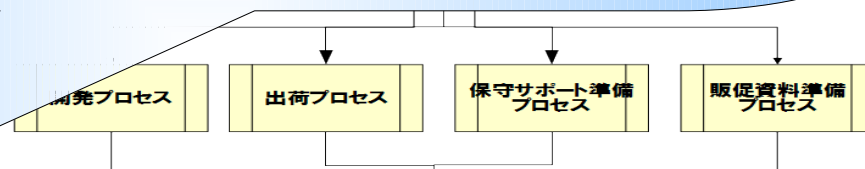
(OSSライセンスの遵守状況  
を調査するための11の問診票  
-ヒアリングのためのツール)

製品への  
適用の仕方

2種類の帳票をご用意しています  
価格: 個別相談

すべての製品  
について

製品内の利用  
OSSについて



# 11. 品質管理システムに組み込むには時間がかかる

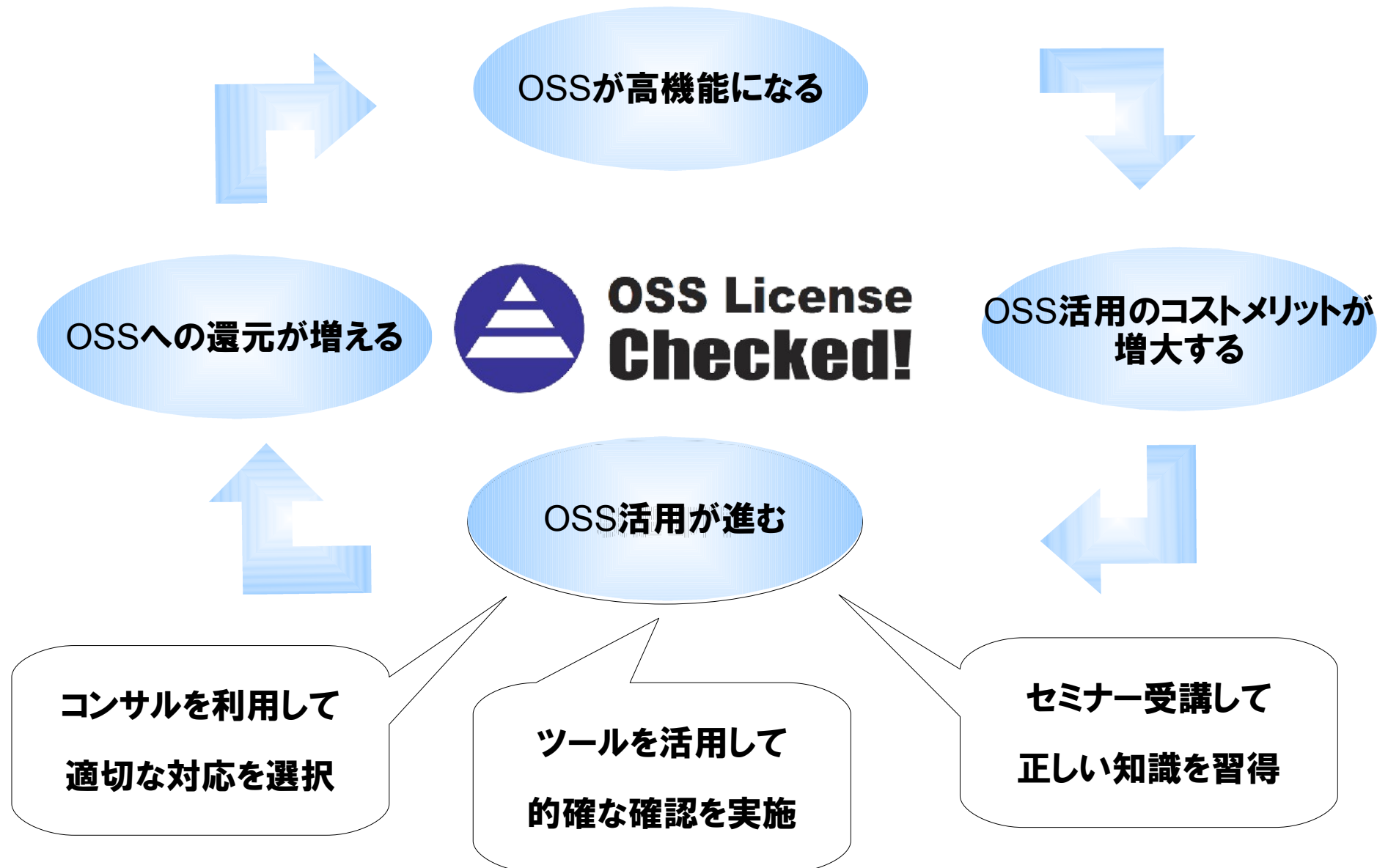
**今、緊急に必要な対策は？**

**近年、SFLLCが訴訟対象としたOSS  
の利用の確認。**

**利用していればソースの開示の確認。**

**非開示ならば、ソースの公開。**

# OSSの正のスパイラルに乗って共に成功の道へ



# お問い合わせ先

- ・コンサルティング・サービス:

<http://www.nec.co.jp/oss/IPconsul/>

